



グアテマラってどんな国？



中米に位置するグアテマラはコーヒー豆が名産の国で、日本でも高級豆として流通しています。

都市部には高層ビルが立ち並び、経済の発展がみられますが、貧富の差が大きく、その大半は農村部で生活する先住民族です。

とくに5歳未満の子どもの栄養状態が大きな課題であり、子どもの2人に1人が発育阻害だと言われています。

発育阻害に大きな影響を及ぼしているのが、胎児期からの栄養状態です。貧困地域で生活する先住民族のお母さんたちにとって、栄養バランスの良い食事を毎食とることは難しいと言えます。



© 佼成出版社

「一食ユニセフ募金」は**慢性栄養不良**にならないための事業に使われています。

1 急性栄養不良と慢性栄養不良

急性栄養不良

- 見た目がやせている
(腹部のみふくらんでいる)
- 集中治療をすれば回復の見込みがある

違いがあるの
知って
いますか？

慢性栄養不良

- 通常より身長が低い、体型など外見から判断しづらい
- ある一定の時期を過ぎると、そのあとに栄養を与えても回復が見込めない
- 脳の発達にも影響を与える

2 目に見えない慢性栄養不良

胎児期から2歳までに十分な栄養を摂取できず、心や体・脳の発育が阻害されている状態です。脳の発達が妨げられることで、言葉が話せない、身長が伸びない、病気にかかりやすく、死に至る割合も高くなるなどの危険を含んでいます。学校に行けない子も多く、大人になってからの収入が低下し、貧しい生活を強いられる可能性が高まります。外見から判断しにくいことに加え、栄養不良による知能や身体の発達の遅れを取り戻す術はなく、慢性栄養不良になった子どもは、一生かけてその重荷を背負わなければならないのです。

慢性栄養不良の男の子(3歳)と1歳の健康な子どもの等身大パネル。
男の子は1歳の平均程度しか身長がなく、まだ話せない。



© 佼成出版社



いちじき
一食を捧げる運動

wakachiai
sharing meals for friends

立正佼成会は「一食ユニセフ募金」を通じてユニセフの活動を応援しています。
募金は、リベリア、シエラレオネにおける世界宗教者平和会議(WCRP/RfP)との子どもの保護事業、グアテマラの栄養習慣改善事業、並びに緊急支援事業に役立てられます。
<http://www.ichijiki.org/>

3 ユニセフはどんなことをしているの？

I 助産師への研修の実施

➡ 先住民のお母さんは助産師に絶大な信頼を寄せています。助産師を教育することで、子育てに対する正しい知識がお母さんに伝わりやすくなります。

II 地域の習慣や言語に根差した教育の実施

➡ 教育資材の作成や栄養のとれる食事の教育を通じて、お母さんの知識不足により慢性栄養不良の割合が高くなる負の連鎖を防いでいます。

III 保健省との連携

➡ 資格を必要としない助産師は、医師から軽視されるため、ガイドラインを作成し、助産師の地位の確立を促進しています。



助産師（真ん中）の訪問を受ける先住民の妊婦（左）、それを見守る保健省スタッフ（右端）



地域住民主導で集会を開き、必要な栄養や衛生習慣について学んでいる。



住民自ら学習資材をつくり、啓発活動を行う。写真は手洗いの大切さを伝えるためのもの

現場スタッフの思い

マリア・クラウディア・サンティゾ、ユニセフの保健担当官です。

私は医学の道から、子どもたちの命と笑顔を守りたいと、この仕事を始めました。この仕事で出会った子どもの写真を会社の机の上においています。左の男の子はアルベルト君（5歳）、右の女の子はロサちゃん（3歳）。二人は従兄妹同士ですが、年上のはずのアルベルト君の方が小さく、慢性栄養不良によって脳の発達が不十分なため、話すことも歩くこともできません。残念ながら、アルベルト君はこの時期に背負ってしまった重荷を人生をかけて背負っていかねばなりません。私たちは、ひとりでも多くの子どもたちが良い人生のスタートをきれるよう、そして尊厳をもった幸せな生活ができるよう、歩みをとめるわけにはいきません。すべての子どもたちの笑顔のためにユニセフは活動を続けて参ります。



アルベルト君（5歳、左）と従妹のロサちゃん（3歳、右）



現地の母親に微量栄養素の指導をするマリア（右端）



リベリアってどんな国？

西アフリカに位置するリベリアは、2004年まで続いた内戦で多くの人が犠牲となり、人々の生活基盤が完全に崩壊しました。国民の69%が一日1.9米ドルで過ごす、貧困層の多い国です。

復興に向けて歩んでいた2014年にエボラ出血熱が流行し、たくさんの犠牲者が出ました。

エボラにより両親や保護者を失った子どもたちはもちろん、直接エボラの影響を受け、差別や拒絶の対象になった子どもたちがたくさんいます。



©UNICEF/UNI125847/Asselin

「一食ユニセフ募金」はエボラ出血熱で影響を受けた子どもの保護事業に使われています。

1 エボラ出血熱

- ウィルス性の感染症で、死に至る
- エボラにかかった患者の血液や排泄物に触れると感染してしまう



2 エボラ出血熱の影響

- 地域による差別や拒絶の対象となり、捨てられる子どももいる
- 子どもたちは精神的トラウマを抱えてしまう
- 学校に行けない(閉校)
- 両親を亡くした子どもが多くいる(エボラ孤児)

3 エボラにより困難な立場になった子どもの保護

2014年、リベリアでエボラ出血熱が流行しました。新たな感染は1年以上報告されなくなっていますが、影響を受けた子どもやその家族・保護者は未だ保護が必要です。エボラウィルスに触れた子どもの多くは、当初、彼らも感染者と考えていたコミュニティによって、差別・拒絶を受けていたことが報告で明らかになっています。エボラ孤児8,000人のほとんどが家族や友人、親戚や地域住民によってケアされています。しかし、彼らがすべてのニーズを満たす経済的手段を持たないこともあり、子どもの学校給食や入学費用を支払うための一時的な補助金も十分でない場合もありました。

ユニセフは、子どもにとっての最善の場所は家族のいる家庭であり、両親・保護者を失った子どもが家庭的な環境に残ることを目指しています。ユニセフとリベリア諸宗教評議会(IRCL)のパートナーシップは、孤児となった子どもの保護制度、とりわけ里親、親戚によるケア、イスラムのカファール制度(イスラム・コミュニティが実践する里子養育の形)の強化などを盛り込む代替制度を促進するための子どもの保護を強化しました。



© 佼成出版社



いちじき
一食を捧げる運動

wakachiai
sharing meals for friends

立正佼成会は「一食ユニセフ募金」を通じてユニセフの活動を応援しています。
募金は、リベリア、シエラレオネにおける世界宗教者平和会議(WCRP/RfP)との子どもの保護事業、グアテマラの栄養習慣改善事業、並びに緊急支援事業に役立てられます。
<http://www.ichijiki.org/>

4 ユニセフはどんなことをしているの？

I 病気への恐怖や理解不足による拒絶に対し、地域住民への正しい知識の教育

II 周囲から拒絶され精神的ストレスを抱えた子どもたちのケア

III エボラ孤児になってしまった子どもの復学支援



子どもの権利や保護について話し合う集会。地域住民が主導となって、子どもの利益の最優先について話し合っている。



エボラ一時隔離センターでケアを受けるエボラ孤児



ユニセフの支援で復学できた子どもたち

子どもたちの思い

私はアンジェリン、9歳です。エボラは人を殺す怖い病気で、ママとパパも亡くなってしまいました。妹と弟、私だけが残ри、今はウェストポイントにおばあちゃんと住んでいます。おばあちゃんは私たちを学校に通わせるお金がなく、2年間学校に行けませんでした。地域の長老の紹介で、IRCLが助けに来るまで学校に通う援助を受けたことはありませんでした。今、学校に行けて、制服、靴、教科書、ノート、鞆、授業料を含め、学校のものも全て提供してもらえて、とても嬉しいです。私たちは、ご支援のお陰で学年を修了することができます。



アンジェリンちゃん



エボラ孤児になった女の子とその家族



エボラ出血熱の影響で封鎖になっていた学校が再開し、元気に登校する子どもたち



シエラレオネってどんな国？



西アフリカに位置するシエラレオネは、5歳未満の子どもたちの死亡率が世界で5番目に高い国です。

その背景の一つに高い貧困率、そして長引いた内戦があります。内戦により社会インフラは崩壊し、安全な水や安定した電気の供給すらままならない世帯もあります。貧困がさらに輪をかけて妊産婦の状況を不安定にし、妊産婦を医療施設の利用から遠ざけてしまいます。

そこに、2014年からリベリア同様エボラ出血熱の大流行で、お母さんや子どもたちは大きな影響を受けてしまいました。性暴力の被害に遭う率も高く、ここ数年で急増しています。シエラレオネでは、宗教指導者への信頼が厚いため、彼らは大きな発言力を持っています。多くの人々に正しい知識を広めてもらうため、宗教指導者が予防接種や子どもの保護への正しい知識を身につけることが大切です。



© UNICEF/UN076329/James UNICEF

「一食ユニセフ募金」は子どもの健全な成長を促進するため
宗教指導者への教育を行っています。

1 ユニセフはどんなことをしているの？



ラジオ番組の放送

- 子どもの生存、発達、保護などの課題を盛り込んだ、100回の対話型のラジオ番組の放送
- 宗教指導者がより多くの人々に触れ、対話や課題の明確化ができる場所になっている



© 佼成出版社

重要なメッセージを盛り込んだツールの作成

- コーランや聖書などの文言を引用したメッセージの作成
- モスク、教会など地域と関わる場で、宗教指導者がメッセージを掲載した冊子をコミュニケーション・ツールとして活用

宗教指導者の活用

- 主要な宗教指導者が指導者研修を隔月で3回実施
- 地域や政府と連携し、行動や習慣に影響力を持つ宗教指導者を活用することで、分野や宗教を超えて、様々な課題に対応するための知識や技術を共有



© UNICEF/UNI167508/Ja

いちじき
一食を捧げる運動wakachiai
sharing meals for friends

立正佼成会は「一食ユニセフ募金」を通じてユニセフの活動を応援しています。
募金は、リベリア、シエラレオネにおける世界宗教者平和会議(WCRP/RfP)との子どもの保護事業、グアテマラの栄養習慣改善事業、並びに緊急支援事業に役立てられます。
<http://www.ichijiki.org/>

牧師ストーリー

「前向きな行動が前向きな社会をつくる」

アルマミ・パプソ牧師は、ユニセフや関連政府、省庁と密に連携し、宗教協力を通じた前向きな行動や習慣を促すことを目的としている地域コーディネーターの一人です。

「研修を受けて、ユニセフの様々な登録や技術支援を通じて、教育、保健、子どもの保護などの課題について知識を得て、必要な力をもらったように感じます。保健や周りの人々の開発がなぜ重要なのか、今はしっかり理解することができます。牧師として、これらの課題があるのは知っていましたが、研修を通じて信頼できる情報と証拠をもって、より子どもの貧弱さを理解することができました。」パプソ牧師は前向きな習慣を広めただけでなく、行動を起こすよう促しました。予防接種を拒否していた家族のもとを訪れ、子どもの健全な成長について伝えました。お母さんは「牧師が予防接種は絶対に安全なものだからと念を押してくれたなら、誰が断れるでしょうか。」と話してくれました。



© UNICEF/Sierra Leone



保健員から経口ビタミンAサプリメントを補給される女の子
© UNICEF/UN072242/Phelps



生後9ヶ月の栄養不良の子どもの治療指導を受ける母親(右)
© UNICEF/UN065231/Phelps



© UNICEF/UN065189/Phelps

授業を受ける女の子たち。女の子たち自身が正しい知識を身につけ、教育を受けることが子どもの栄養不良の改善や5歳未満児の死亡率の削減にも繋がる。

宗教のちからでグローバル連携

ふるさとを奪われた子どもたち

難民の子どもたちは近年まれに見る苦境に置かれています。世界中で2,800万人の子どもたちが避難を余儀なくされています。自国の紛争や暴力の恐怖から逃れ、子どもの難民は安全で健全な日々を求めて、危険な旅に、時として一人ぼっちで乗り出しています。道中、多くは人身売買や虐待などの暴力の危険にさらされ、家族とはぐれたり、引き離されたりしています。その結果、こういった子どもたちは世界中で最も脆弱な立場に追いやられ、状況は悪化の一途をたどるばかりです。

残念ながら、この困難な状況は子どもたちが目的地にたどり着いたからといって終わるものではありません。受け入れる政府や自治体は多大な助成を得ているものの、難民や移民の子どもたちは必要なサービスや保護を求めているにもかかわらず、不平等な貧困や搾取にさらされています。さらには、言葉や法津の障壁が、難民の子どもたちを必要な支援から遠ざけているのです。



© UNICEF/UN0412777/Georgiev
マケドニア旧ユーゴスラビア共和国に向かう電車を待ち、線路で寝泊りする少女

「一食ユニセフ募金」はユニセフと世界宗教者平和会議(WCRP/RfP)の取り組む難民支援**にも使われています。**

難民のためのキャンペーン

ユニセフの市民社会パートナーシップ局とパートナー団体が連携し、世界中の難民の子どもとその家族を支援するための結束に向け、連帯を呼びかけるためのキャンペーンです。

FaithOverFear

世界中の人々が抱える恐怖や恐れ、偏見を取り除き、地域社会を難民に寛容に開いていくことを目的としています。難民を受け入れ、支えるよう促すため、#FaithOverFearをシェアしよう!!

**FAITH
OVER FEAR**

FaithOverFear特設サイト
<https://wechoosefaithoverfear.com/>

- 1 Facebook** I. 信仰を通じて難民を受け入れることへの恐怖を克服した人々の取り組みを支持
II. WeChooseFaithOverFear.comのウェブページから動画を閲覧、シェアする
III. プロフィール写真を#FaithOverFearのフレームを使ってアップデート
- 2 SNS** 信仰を行動に移し、他者を受け入れたことを投稿し、シェアする
(必ず#FaithOverFearをつける)



Refugeeswelcome ♡

難民と難民ではない人たちが同じテーブルを囲み、食事を分け合うことで壁を取り除こう、と始まった取り組みです。世界各地でディナーが開催されています。



立正佼成会は「一食ユニセフ募金」を通じてユニセフの活動を応援しています。
募金は、リベリア、シエラレオネにおける世界宗教者平和会議(WCRP/RfP)との子どもの保護事業、グアテマラの栄養習慣改善事業、並びに緊急支援事業に役立てられます。
<http://www.ichijiki.org/>

みなさまのご寄付でできること

366円で

子ども用のえんぴつ10本

ノート10冊に！



300円で

重度の栄養不良からの回復に

役立つ栄養治療食8袋に！

10円で

ビタミンやミネラルが含まれた

微量栄養素パウダー4袋に！



1000円で

下痢による脱水症から子どもの

命を守る経口補水塩153袋

※ 2018年3月現在、1米ドル112円の計算

※ 輸送や配布のための費用は含まれていません。